

厚生労働科学研究費補助金

長寿科学総合研究事業

要支援者および軽度要介護者の介護サービスの
計画および標準化に関する研究

平成 16 年度～平成 18 年度 総合研究報告書

主任研究者 杉原 素子

平成 19 (2007) 年 3 月

目 次

I. 総合研究報告書

要支援者および軽度要介護者の介護サービスの計画および標準化に関する研究

研究要旨	1
A. 研究目的	2
B. 研究方法	3
1. 本研究事業の実施過程	4
2. 「軽度層高齢者ケアプラン作成のための評価試案」の作成について	4
3. 「軽度層高齢者の類別化」および「軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」について	4
4. 軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」に対応した個々のケアの内容の作成について	4
5. 倫理面への配慮	4
C. 研究結果	5
1. 研究結果の概要	5
2. 「軽度層高齢者ケアプラン作成のための評価試案」の作成について	7
(1) 評価試案の概要について	7
(2) 評価項目について	7
(3) 評価の特長について	18
3. 「軽度層高齢者の類別化」および「軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」について	19
(1) 調査結果	19
1) 『起居・移動』について	22
2) 『ADL』について	22
3) 『IADL』について	22
4) 『社会参加』について	24
(2) 「軽度層高齢者の類別化基準」および類別結果について	26
1) 基本動作困難群	26
2) 基本動作高位群	26
3) 社会参加高位群	27
4) 家庭内役割無し群	27
5) 意欲の低下および不安が高い群	28
6) 意欲の低下および物忘れ自覚群	28
7) 類別結果のまとめ	34
(3) 軽度層高齢者の状態像について	37
4. 「軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」に対応した個々のケアの内容について	39
(1) 類別結果に対応した個々のケアの内容について	39
1) 基本動作困難群のケアの内容	39
①本群対象者のケアプランの基本的な考え方	39

②本群対象者のプログラム例	39
③具体的な活動紹介	41
2) 基本動作高位群のケアの内容	43
①本群対象者のケアプランの基本的な考え方	43
②本群対象者のプログラム例	43
3) 社会参加高位群のケアの内容	46
①本群対象者のケアプランの基本的な考え方	46
②本群対象者のプログラム例	46
4) 家庭内役割無し群のケアの内容	49
①本群対象者のケアプランの基本的な考え方	49
②本群対象者のプログラム例	49
5) 意欲の低下および不安が高い群のケアの内容	52
①本群対象者のケアプランの基本的な考え方	52
②本群対象者のプログラム例	53
6) 意欲の低下および物忘れ自覚群のケアの内容	55
①本群対象者のケアプランの基本的な考え方	55
②本群対象者のプログラム例	56
(2) 全体としての留意事項	57
1) 各群に共通して注意すべきポイントと考慮すべき共通プログラムについて	57
①共通プログラム1：聴力・視力の低下しているもの	57
②共通プログラム2：独居生活をしているもの	59
③共通プログラム3：福祉機器などの導入や生活環境の工夫などが有効なもの	60
④共通プログラム4：食事の栄養のバランスや摂取量に問題のあるもの	60
⑤共通プログラム5：必要な医学的管理が出来ていないと思われるもの	61
(3) ケアプランの事例検討	62
1) 事例1	62
①事例説明	62
②ケアプランの提案	63
2) 事例2	66
①事例説明	66
②ケアプランの提案	67
3) 事例3	70
①事例説明	70
②ケアプランの提案	71
4) 事例4	74
①事例説明	74
②ケアプランの提案	74
5) 事例5	78
①事例説明	78
②ケアプランの提案	79

D. 考 察	8 2
1. 軽度層高齢者の特性について	8 2
2. 軽度層高齢者の類別化について	8 4
3. 軽度層高齢者の個別プランの作成について	8 5
4. 介護予防を支える体制について	8 7
(1) 既存のサービス体制について	8 7
(2) これからのサービス体制について	8 7
E. 結 論	8 9
F. 健康危険情報	8 9
G. 研究発表	9 0

〔資 料〕

1. 『軽度層高齢者のケアプラン作成のための評価表』
2. 大田原市筋力向上トレーニングメニューについて
3. 大田原市の協力支援体制・研究協力事業所・大学研究協力者・研究員 名簿
 - ①平成 16 年度研究体制
 - ②平成 17 年度研究体制
 - ③平成 18 年度研究体制

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
（総合）研究報告書

要支援者および軽度要介護者の介護サービスの計画および標準化に関する研究

主任研究者 杉原 素子 国際医療福祉大学 保健学部長 作業療法学科長

研究要旨

本研究は、平成 16・17・18 年度の 3 ヶ年にわたる研究である。栃木県大田原市の協力のもと、軽度層高齢者の心身の状態を改善させることを目指し、そのためにケアプランの見直し、軽度層高齢者の状態の類別化と、それぞれの類別された群に必要なケアの内容を標準化することを目的とした。軽度層高齢者の類別化およびケア内容の標準化にあたっては評価方法の検討を併せて行った。これらの研究成果により「軽度層高齢者の状態像」をまとめ、最終的に類別化した 6 群に対応した「軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」を提示し、それらを実践するための具体的なケアの内容を提案することができた。

（分担研究者） なし

A. 研究目的

平成 12 年度に開始した介護保険制度において、要支援・要介護 1 等の介護認定を受けた軽度層高齢者は、自立支援に向けたリハビリテーションサービスを受けることにより、日常生活の状態が改善されることが期待される。しかしながら、これら軽度層の高齢者は要介護認定者全体の約 1 / 2 を占めるとともに、要介護度が歳を重ねる毎に改善されずに重度化する傾向がみられた。

本研究の目的は、栃木県大田原市を研究のフィールドとして、軽度層高齢者の心身の状態を改善させるために、まずケアプランの見直しを行うとともに、軽度層高齢者の状態を類別化し、類別されたそれぞれの群に対し適切なケアの内容を検討し、それらを標準化することにある。

B. 研究方法

1. 本研究事業の実施概要

本研究の主な対象は栃木県大田原市在住の軽度層高齢者である。大田原市は、本研究開始当初の平成16年9月30日時点、人口56,919人、65歳以上が9,795人(高齢化率17.2%)、75歳以上が4,628人(後期高齢化率8.1%)の農村地域である。その中で、要介護認定者数は1,438人、介護保険受給者数は1,149人、要支援受給者数144人(12.5%)、要介護1受給者数313人(27.2%)である。

本研究の実施過程を図1に示した。本研究事業開始時の平成16年度は大田原市在住の全ての軽度層高齢者473人を対象に類別化を実施した。この際の類別化の視点は「疾患別」とした。平成16年度はこの疾患別の類別化作業と同時に同市が国から受託した「平成16年度市町村介護予防モデル事業 筋力向上トレーニング事業/マシンなし」のモデル事業に本研究グループが全面的に協力し、市との共同研究というかたちでこの事業を実施した。

介護予防モデル事業への参画を通して、要支援・要介護1の軽度層高齢者は「疾患性が低い」ことがわかり、軽度層高齢者を対象に個別的なケアプランを作成するためには新たな指標を用いた類別化の作業が必要と考えた。そこで介護認定調査の一次判定資料調査項目に基づく類別化を試みたが、一次判定資料のチェック項目だけでは個別的な介入プランに結びつく類別化は難しく、最終的には平成17年度において「軽度層高齢者ケアプラン作成のための評価試案」を作成し、作成した評価試案を用いた聴き取り調査結果から「軽度層高齢者の類別化」を試みた。この結果から「軽度層高齢者の状態像」を把握し、「軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」を提案することができた。

平成18年度は「軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」に応じた一つひとつのケアの実施マニュアルを作成した。

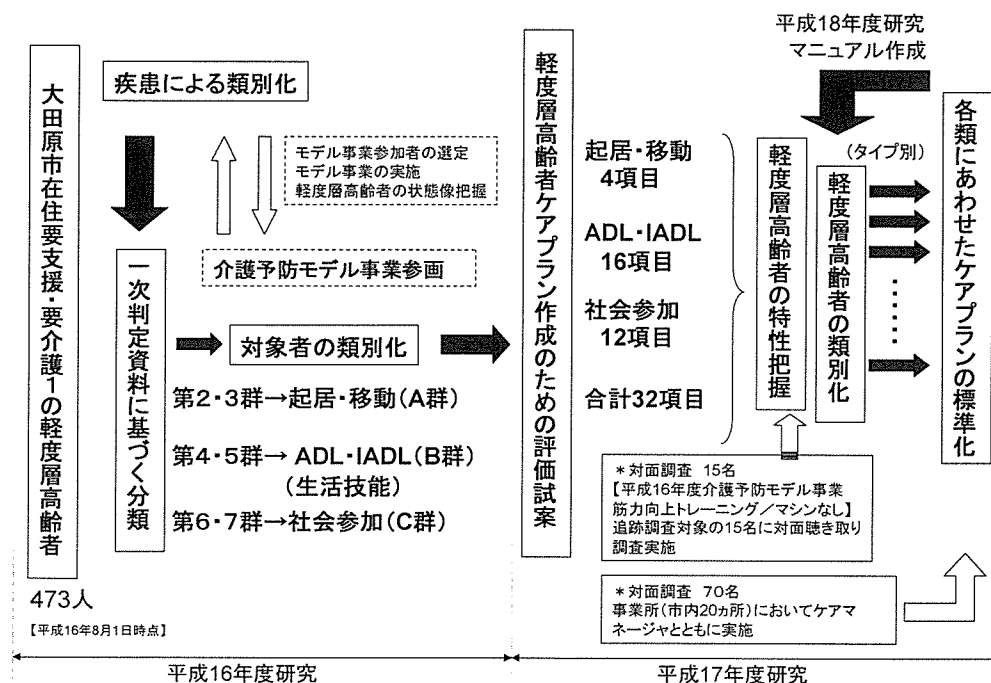


図1 本研究の実施過程

2. 「軽度層高齢者ケアプラン作成のための評価試案」の作成について

大田原市の「平成 16 年度市町村介護予防モデル事業 筋力向上トレーニング事業／マシンなし」への協力を通して、大田原市在住の軽度層高齢者 473 人（要支援：177 名、要介護 1：296 人）を対象に、介護認定審査会資料の一次判定資料を参考に介護予防モデル事業における「筋力向上群」対象者の選別と軽度層高齢者の類別化を実施した。

平成 17 年度は、平成 16 年度に実施した「軽度層高齢者の類別結果に対応した評価項目と評価基準案」に加え、Lawton の IADL 評価表*、老研式活動能力指標**（TMIG Index of Competence）、江藤らの ADL20***を参考に評価項目を再検討し「軽度層高齢者ケアプラン作成のための評価」を試案した。

次に、平成 16 年度の「筋力向上トレーニング事業」参加者および本研究事業の協力者 21 名中、平成 17 年度に協力が得られた 14 名に対して「筋力向上トレーニング事業」のフォローアップとともに本研究事業の予備調査を実施し、「軽度層高齢者ケアプラン作成のための評価」を試作した。

3. 「軽度層高齢者の類別化」および「軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」について

調査対象は大田原市内在住の軽度層高齢者とし、大田原市内ケアマネージャー連絡協議会、大田原市介護サービス事業者連絡協議会の協力を得て、訪問調査を実施した。

調査は大田原市内の事業所 12 施設のうちケアマネージャーが勤務している 11 施設、各事業所のサービス利用時、もしくは担当ケアマネージャーと家庭訪問し聴き取りをおこなった。調査結果に基づき、対象者を類別化し、「軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」を検討した。

4. 「軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」に対応した個々のケア内容の作成について

軽度層高齢者の類別結果に基づき、類別化した群および軽度層高齢者に共通するプログラムについて、個々のケア内容を検討した。

5. 倫理面への配慮

本研究事業の開始にあたり大田原市個人情報保護に関する届出を提出した。また、個人情報の取り扱いには個人が特定されないよう十分注意し、データは責任者が保管し、データ処理の際には氏名を記号化した。

(注)

*Lawton MP, Brody EM: Assessment of older people: self-maintaining and instrumental activities of daily living. *Gerontologist* 9:179-186, 1969

**古谷野亘, 他: 日本公衆衛生雑誌 34 (3) :109-114, 1987.

***江藤文夫, 他: 日本老年医学会雑誌 29:841-848, 1992.

C. 研究結果

1. 研究結果の概要

平成 16 年度は、大田原市在住の全ての軽度層高齢者 473 人（要支援：177 名、要介護 1：296 人）を対象に、「疾患別」に対象群を類別化した（表 1-1）。この類別結果に基づき国の介護予防モデル事業の対象者を選定し「筋力向上トレーニング事業／マシンなし」を実施した（表 1-2）。この事業への参画を通して軽度層高齢者への介入効果が確認できた。しかし、軽度層高齢者の特性を把握していく中で、対象者の疾患・症状の視点のみからではケアプランに結びつく類別化は困難と考え、要介護度の改善に直接結びつけるために、介護認定調査票の一次判定資料にチェックされた項目群に着目することとした。認定調査項目の第 2 群・第 3 群（複雑動作）にチェックがついているものを A 群『起居・移動(支援)グループ』、第 4 群(特別介護)、第 5 群(身の回り)にチェックのついているものを B 群『生活技能・IADL (支援) グループ』、第 6 群(意思疎通)・第 7 群(問題行動)にチェックがついているものを C 群『社会参加 (支援) グループ』とした。グループ別の分類結果は表 1-3 に示した通りであり、A&B&C 群といったすべてのグループに属している対象者が半数 (50.4%) を占めた。

一人ひとりの高齢者に対する具体的な介入プログラムを検討する場合、個人の心身の状態のみでなく生活状況も把握してその改善に向けた介入プログラムが必要となる。そこで、一次判定資料だけでは得られない個別的な情報を把握することと、改善可能な課題を具体的に選び出すことができるよう新たな評価項目の検討を行い、平成 17 年度は「軽度層高齢者ケアプラン作成のための評価試案」の作成、「軽度層高齢者の特性」を把握し「軽度層高齢者の類別化」を行った。

平成 18 年度は本研究の最終的な目標となる類別化した高齢者群にあわせた個々のケアの内容について提案した。

表 1-1. 軽度層(N=473)の類別化

類別化の視点	軽度層	
	(人)	(%)
類別1(筋骨格系・関節の疾患)	78	16.5
類別2(高齢による廃用性変化・衰弱)	56	11.8
類別3(脳血管障害)	52	11
その他 精神疾患・難病など	91	19.2
認定調査項目第 7 群(問題行動)	123	26
訪問リハ・通所リハの利用	73	15.5
計	473	100

表1-2. モデル事業対象者の選定

類別化の視点	対象者の 初期選定	エントリー除外条件		対象者の 最終選定
		①	②	
類別1(筋骨格系・関節の疾患)	78	74	56	17
類別2(高齢による廃用性変化・衰弱)	56	26	20	2
類別3(脳血管障害)	52	39	21	8
計(人)	186	139	97	27
軽度層(N=473)における割合(%)	39.3	29.3	20.5	5.7

①「最近6ヶ月以内に脳卒中をおこしたもの」「心疾患の既往のあるもの」「高血圧のもの」

②「90歳以上のもの」

表1-3. 軽度層を対象とした認定調査項目による類別化

類別群	80歳以上		79歳以下		計	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
A群	19	4.2	21	4.7	40	8.9
B群	1	0.2	3	0.7	4	0.9
C群	1	0.2	5	1.1	6	1.3
A&B群	65	14.4	50	11.1	115	25.6
A&C群	19	4.2	14	3.1	33	7.3
B&C群	15	3.3	9	2.0	24	5.3
A&B&C群	155	34.4	72	16.0	227	50.4
該当なし	0	0.0	1	0.2	1	0.2
計	275	61.1	175	38.9	450	100.0

A群:『起居・移動(向上)グループ』

B群:『生活技能(向上)グループ』

C群:『社会参加グループ』

2. 「軽度層高齢者ケアプラン作成のための評価試案」の作成について

(1) 評価試案の概要について

試案した評価表を資料1に添付した。評価項目は、『起居・移動』（一次判定資料の第2群・第3群に対応）4項目、『ADL・IADL』（一次判定資料の第4群・第5群に対応）16項目、『社会参加』12項目、の合計32項目とした。現在の状況を把握するための評価基準は、「できる」もしくは「心配ない」、「部分的にできる」もしくは「少し不安」、「出来ない」もしくは「心配である」の3段階とし、各項目に対して『本人の困難度』を「困っている」・「困っていない」・「どちらともいえない」の3段階で把握することとした。

評価は下に示す各項目別の絵カードを用いて行った。まず、調査の設問にそって聴き取りながら、対象者の現状を「できる・できない」で把握し、「できない」と回答された項目の絵カードを机の上に残しておく。次に、残ったカードについて、「困っている」か「困っていない」を尋ね、「困っている」と回答したカードを机の上に残しておく。最後に、机上に残っている絵カードを再度対象者に提示し、困っている順に優先順位をつけてもらった。その優先順位は、ケアプラン作成の材料とした。また、軽度層の高齢者を対象とすることを前提としているため、対象者が困っていて必要なプログラムは数種類（1～3程度）に限定することができると考えた。

なお、絵カードの作成にはICFイラストライブラリー*を使用し、不足している絵カードについては自作した。

(2) 評価項目について

1) 起居・移動の調査項目について

1.立位を保持したときの様子は次のどのような状態ですか

- 特に支えは必要ない
- 支えがなくても30秒は立っていられる
- 常に支えが必要

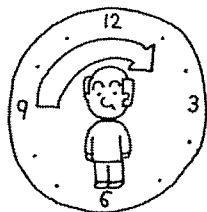


図2-1. 立位保持の状態について

(注) *ICF illustration library 製作者の高橋泰（国際医療福祉大学）の承諾を得て利用した。

2.床から立ち上がる時の様子は次のどのような状態ですか

- 何もつかまらないうで立てる
- 台や椅子などになどつかまれば立てる
- 一人では立ち上がることはできない

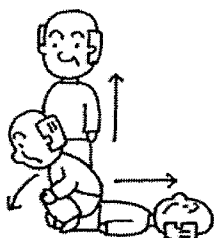


図2-2. 床からの立ち上がりについて

3.関節の筋の痛みについて教えてください

- 特に痛くない
- 少し痛い部位もあるが我慢できる
- 日常生活に支障があるほど痛みが強い



図2-3. 関節の痛みについて

4.歩行能力は次のどのような状態ですか

- どこにでも歩いて自由に行える
- 15分程度ならば歩いて自由にいける
- 室内であれば歩いて移動が可能

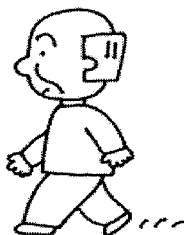


図2-4. 歩行能力について

5.電車やバス、自転車・バイク・自動車を運転して外出できる

- 自分で出来る
- 援助があればできる
- 全く行えない

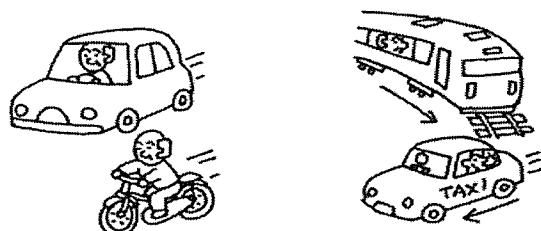


図2-5. 乗り物を利用した外出について

6.栄養のバランスと量を考えた食事をとることができますか

- 自分で栄養のバランスと量を考えた食事をとることができる
- 助言や援助があれば一人でできる
- まったく行えない。もしくは行おうとしない



図2-6. 栄養のバランスと量について

7.食事の準備と後片付けの状況について教えてください

- すべて一人でできる
- 助言や援助があれば一人でできる
- まったく行えない。もしくは行おうとしない

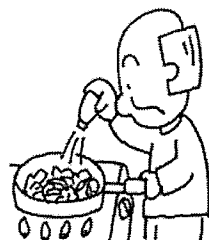


図2-7. 食事の準備と片付けについて

8. 歯磨きや入れ歯の手入れの状態について教えてください

- 自分で手入れができ、口腔内の衛生を保つことができる
- 助言や援助があれば一人でできる
- まったく行えない。もしくは行おうとしない



図 2-8. 歯磨きや入れ歯の手入れについて

9. 洗面の状態について教えてください

- 準備、片付けも含めてすべて一人でできる
- 助言や援助があれば一人でできる
- まったく行えない。もしくは行おうとしない



図 2-9. 洗面の状態について

10. 衣服の着脱について教えてください

- 準備、片付けも含めてすべて一人でできる
- 助言や援助があれば一人でできる
- まったく行えない。もしくは行おうとしない

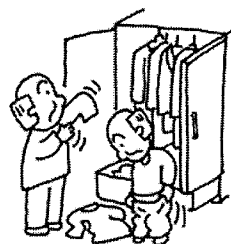


図 2-10. 衣服の着脱について

11.排泄の状況について教えてください

- 準備、片付けも含めてすべて一人で行える
- 助言や援助があれば一人で行える
- まったく行えない。もしくは行おうとしない

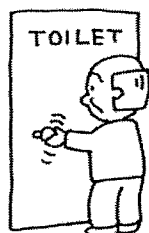


図 2 - 1 1 . 排泄の状況について

12.入浴の状況について教えてください

- 準備、片付けも含めてすべて一人で行える
- 助言や援助があれば一人で行える
- まったく行えない。もしくは行おうとしない



図 2 - 1 2 . 入浴の状況について

13.健康管理面について教えてください

- 自分の健康上の問題を適切に自覚し管理できる
- 助言や援助があれば一人で行える
- まったく行えない。もしくは行おうとしない

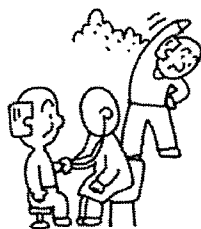


図 2 - 1 3 . 健康管理面について

14. お金や通帳の管理について教えてください

- 自分で金銭を管理し、銀行、郵便局からの口座の出し入れを自分でできる
- 助言や援助があれば一人でできる
- まったく行えない。もしくは行おうとしない

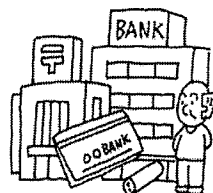


図 2-14. 金銭管理について

15. 電話の使用状況について教えてください

- 必要に応じて使用することができる
- 知っている 2、3 箇所へは連絡できる
- 全く使用できない、もしくは使おうとしない



図 2-15. 電話の利用について

16. ゴミ出しの状況について

- ゴミの分別や袋を縛るなどの準備や片付けをして、収集場所までもって行くことができる
- 援助があればできる
- まったく行えない。もしくは行おうとしない



図 2-16. ゴミ出しの状況について

17.掃除や整理・整頓の状況について教えてください

- 必要な場所を必要に応じてすることができる
- 援助があればできる
- まったく行えない。もしくは行おうとしない

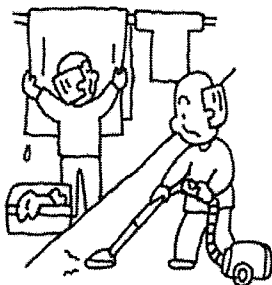


図 2-17. 掃除や整理整頓について

18.買物の状況について教えてください

- 必要な品を自分で買いに行くことができる
- 援助があればできる
- まったく行えない。もしくは行おうとしない

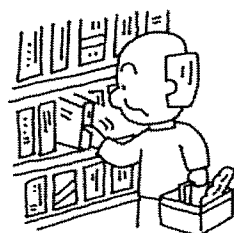


図 2-18. 買物の状況について

19.洗濯の状況について教えてください

- 必要に応じてすることができる
- 援助があればできる
- まったく行えない。もしくは行おうとしない

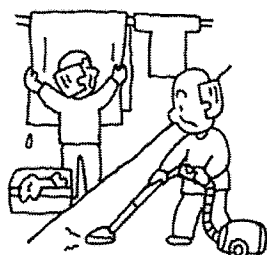


図 2-19. 洗濯の状況について

20. 自宅の施錠や火などの管理について教えてください

- 自分で安全に配慮して管理できる
- 援助があればできる
- まったく行えない。もしくは行おうとしない

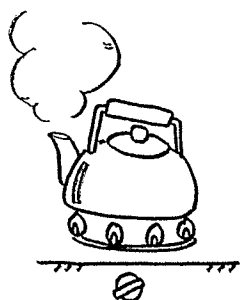


図 2-20. 自宅の施錠や火の始末について

21. 家族・知人との交流について

- 家族・知人との交流が毎日ある
- 家族・知人との交流が週に 2,3 回ほどある
- 家族・知人との交流が週に一度もない

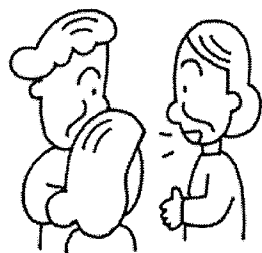


図 2-21. 家族・知人との交流について

22. 視力の状況について教えてください

- 日常生活に特に支障ない
- 時々、目が悪いために、歩行や外出に不自由を感じたり人と話すことが億劫になる
- 目が悪いために、歩行や外出が不自由であり人と話すことができない

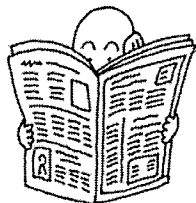


図 2-22. 視力の状況について

23.聴力の状況について教えてください

- 日常生活に特に支障ない
- 時々、聞こえが悪いために、歩行や外出に不自由を感じたり人と交流することが億劫になる
- 聞こえが悪いために、歩行や外出が不自由であり人と交流することができない

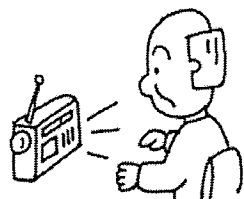


図 2-23. 聴力の状況について

24.言語表現やその他の手段を用いた方法での他者との意思疎通について教えてください

- 日常生活に特に支障ない
- 意思疎通に困るときがある
- 日常生活で意志の疎通がはかれない

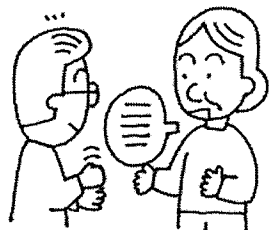


図 2-24. 他者との意思疎通について

25.身だしなみについて

- 清潔で季節感のあるものを自分で選べる
- 助言や援助が必要である
- 全く気にしない

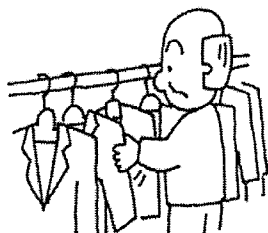


図 2-25. 身だしなみについて

26.生活のリズムについて

- 規則正しい生活をしている
- 助言や援助が必要である
- 全くできない

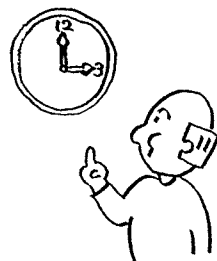


図 2-26. 生活のリズムについて

27.自由時間の過ごし方について

- 自分なりに工夫している
- 助言や援助が必要である
- なにもしない

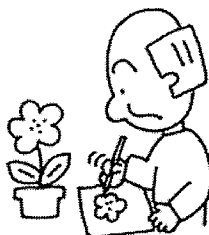


図 2-27. 自由時間の過ごし方について

28.趣味活動について

- 特定のものがある
- 特定のものは無いが好みはある
- なにもしない



図 2-28. 趣味活動について